（平成29年度）

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1	施設名	仙台市なかよし学園
2	指定管理者	社会福祉法人　なのはな会
3	指定期間	平成28年4月1日から平成33年3月31日まで（5年間）
4	施設の利用状況	《利用者数》 ・平成29年度　　5,932人（昨年比 98%） ・平成28年度　　6,025人（昨年比101%） ・平成27年度　　5,922人（昨年比 93%） 《事業》 ・児童発達支援事業
5	収支の状況	《費用》 （　）は前年度決算額 ・指定管理者に支払った費用　83,422千円　（86,472千円） ・その他市が負担した費用　14,157千円　（24,830千円） 《収入》 ・使用料収入　69,724千円　（67,590千円） 【再掲：利用者負担額　248千円　（1,708千円）】 ・その他収入　0千円　（　0千円）
6	利用者の声	《実施状況》 ・平成30年2月，指定管理者の協力のもと障害者支援課で利用者アンケートを実施し，31人/32人中（96.8%）の回答を得た。 ・施設の利用に関し，大変満足又は満足が84.5%，不満との回答は1.9%だった。

二 管理運営に係る評価

（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野		所見	評価
Ⅰ	総則	施設の設置目的に沿った事業計画が作成されており，事業者・職員も設置目的を十分理解のうえ施設運営に当たっている。 交流保育や，近隣の障害福祉サービス事業所との連絡会議などを行い，地域との連携も図っている。 職員全体での情報共有に関して，不十分な点はあったが，障害児福祉や発達支援に関する最新知識の習得に努めている。	A
Ⅱ	施設の運営管理体制	施設の運営管理については，事業計画に基づいた運営がなされている。 経理書類の作成及び通帳印鑑の管理は適正に行われている。	S
Ⅲ	施設・設備の維持管理	廊下に空調設備がなく，冬は室内との寒暖の差が激しいため，保護者より不安の声があがっているものの，清掃・衛生管理・施設の保守点検は適切に行われており，利用者が快適に利用できる環境整備に努めている。	S
Ⅳ	サービスの質の向上	職員研修体制を整え，知識の向上・人材育成に努めている。 利用者の支援に支障があるため名札の着用を行っていない。	A
Ⅴ	施設固有の基準	利用者個々の発達に寄り添った個別支援計画を策定している。 指定児童発達支援事業所としての基準を遵守しながら利用者処遇の向上に努めている。	S

三 その他特に評価すべき優れた取組み

（指定管理者の優れた取組みを評価する　加点要素）

	評価すべき取組み	取組み状況
1		
2		
3		

加点評価	―

四 評価総括

《指定管理者（仙台市なかよし学園）による自己評価》
知的障害、自閉症、脳性麻痺、重症心身障害児など発達に問題を抱えた就学前の幼児32名が在籍。1クラス6～10名で4クラス編成としている。障害別・年齢別でのクラス分けはせず、混合クラスとしている。①毎日通園により生活リズムの確立　②遊びを通して小集団での自主性と社会性の確立　③基本的生活習慣の獲得の3つを柱に療育をすすめてきた。小集団の中で、一人ひとりの個別支援計画に基づき取り組んできた。子どもたちの進路は、ほとんどが就学となる。教育につなげる療育の中身が大切になっている。職員体制は、保育士、児童指導員、の他に医師、看護師、作業療法士、栄養士など他職種で連携をとり療育を行ってきた。 家族支援としては、個々の家族にとって必要に応じて預かり保育をするなど進めてきた。また、保護者との面談や勉強会、交流会を通し信頼関係を深めてきた。 また、29年度から、あおぞらホームと兼用の通園バス4台が、仙台市よりリースされたことにより年齢や発達に合わせた通園ができるようになった。 29年度は15名の子どもたちが卒園を迎え、13名が支援学校、2名が地域の支援学級に進んだ。今後も卒園児を中心に地域との関わりを深め連携していきたいと思う。

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
平成29年度の管理運営について，協定書及び仕様書に従って適切・良好に行われた。 保護者への丁寧な支援や保護者勉強会を開催するなど児童だけではなく家族を含めての利用者処遇の向上に努めている。 近隣保育所や福祉施設等との交流・連携を積極的に実施するなど，北部地域の障害児福祉向上を目指すことを理念とし，児童発達支援センターの役割を果たすため前向きに取り組んでいる姿勢も評価できる。	S

◎ 評価担当課（施設所管課）：健康福祉局障害福祉部障害者支援課